

本場ドイツのダックスフント事情

チャンピオン・ポイントは、 遺伝病や色素の検査結果が 重要視されている

ダックスフントの原産国ドイツでは、理想のダックスフントについてどのように考え、どのように飼育しているのでしょうか？ その実際をドイツに住む大木政春さんに聞いてみました。

写真・文：大木政春

ドイツのダックスフントの毛色は、色素の濃いレッドやブラック&タン、ワイアであればワイルドボアなどが多く、その健全性には目を見張るものがある。



日本のドッグ・ショーとドイツのドッグ・ショーでは、良し悪しを抜きにして大きく違う点が2つあります。ドイツのショーにおいては、チャンピオン獲得システムに異なる点があり、ドイツではチャンピオンの称号を獲得するのはかなり難しく、1年と1日を過ぎた期間での総合チャンピオンポイント制で与えられます。優勝した回数がすべてチャンピオンポイントに繋がるとは限らず、優勝は必須条件でそれ以上にショーのたびに毎回替わる審査員からチャンピオン・ポイント資格を獲得する必要があります。そのポイントには日本には存在しない股関節や肘関節のレントゲン検査や眼の色素検査、ならびに歯のレントゲン検査に基づいた繁殖基準が最も重要視され、優勝チャンピオンではないという点です。

それから日本では、犬をショーに出場させるハンドラーや、ショーのためにオーナーに代わって犬を育てる人たちがドッグ・ショー活動自体を生業にしたり、犬の繁殖と販売を生業にしながらドッグ・ショーに参加したりする人が多く、プロ集団のドッグ・ショーというイメージが強いのですが、ここドイツのドッグ・ショーにおいては、飼い主が自ら参加するケースがほとんどで飼い主と犬との共同の趣味の場のようです。ドイツではペット・ショップで犬が売り買ひされるシステムもなく、繁殖活動自体を生業にしている人も存

在しないので飼い主参加型のアットホームなドッグ・ショーになっているのだと思います。

しかし、趣味とはいえヨーロッパ人のプライドもあり、飼い主同士で互いにライバル心を燃やしながらダックスとしての本来の健全性(健康性)を競い合うことで、おのずとダックス犬の飼い主としての自覚と誇りを強く持つようになります。ダックスとしての正常な精神や骨格構成や色素ならびに歯の数や形まで飼い主はそれぞれに熟知し、皆様にその犬種に必要な性質や骨格構成の重要性を理解し、飼い主自身がひたむきに探求している姿がうかがえます。その犬種なりの長所や欠点を知り尽くし、いかに健全に産ませ育てるかをそれぞれがショーの中で見出し、確認し、競い合っているのです。

そのような文化から、ドイツの飼い主



ドイツのショー風景。レッドの色の濃さが印象的。

には自然と健全性に対して妥協しない資質が生まれ、繁殖する人はダックスの真の健全性を守り継承する強固な姿勢が生まれ、国全体に犬に対する文化や伝統が育まれていくのだと思います。私を感じるに、欧州人は日本人と違い、「犬を飼う」というのではなく、「犬を育てる」ということが飼い主自身の基本にあり、その根底から飼い主自ら犬の健全性を知り、犬を育てるための知識を習得し、トレーニングするのが当たり前の文化が育まれたのだらうと思います。

そのような文化と欧州人の気質から育まれるダックスは、日本のダックスたちとはどこことなく容姿や性格なども違うように感じます。ドイツの獣医師や飼い主から得た情報では、ドイツでは日本に見られるようなダックスの股関節や皮膚病などの病気もほとんど存在せず、ダックスらしい頭脳明晰でおとなしい犬が多いために無駄吠えなどの問題行動を起こす犬もほとんど存在しないそうです。

私がダックスを日本で散歩させているとき、私の犬を見て多くの日本人からは、「この犬はダックスに似ているけど何犬ですか?」と聞かれることが多く、日本のショーでは、私の犬を「あれはダックスではないっ!」といわれたことさえあるくらい、違う犬種に間違えられてしまうことも多々ありました。ダックスが海を隔てて変わってしまったのであればとても残

おおきまさはる●

ドッグフード・メーカー「Bigwood」の研究開発者兼代表者。16年間ドッグ・フードと犬の健全性(=健康性)について探求を続ける。その探求の一端として、自らの犬舎で作出したシェパード犬やダックスたちを、親の代から何世代にも渡り自ら開発したドッグ・フードのみを与え続け、その犬たちと共にドッグ・ショーやドッグ・スポーツならびにドッグ・トレーニングの場へ参加し、ともに健全性を共有しながら、それを証明すべく活動中。ダックスでは、2002年よりオランダのFCIワールドショーを皮切りに、イギリスのクラフト・ショーやドイツのFCI世界大会、ならびにモナコ公国のドッグ・ショーやフランス、イタリアなどのドッグ・ショーに日本から毎年参加し、それぞれのショーで優勝を獲得。現在は1年前よりドイツに移住しショー活動を行っている。5頭のダックスたちも渡独して1年が過ぎようとしている現在、無事全頭チャンピオンに必要なポイントも獲得し、2006年は若犬の部で世界チャンピオンも獲得。本場ドイツでダックスの繁殖犬舎NO.1の称号も授与された。



ドイツ・テッケル・クラブ大会の表彰式。



ドイツ・テッケル・クラブ会長と記念写真。

ファイア・ヘアのダックスはドイツではショーのほか、猟にも多様される(写真はFCIワールドショーヤングチャンピオン獲得犬)。



念なことに思います。

先日、DTK(ドイツテッケルクラブ)のMr.Honsleker会長と対談する機会があり、会長も現在ダックスフントの数は異常なぐらいに世界的に増えた一方、健全性が損なわれていることに、原産国としては非常に胸が痛むことであると話されていました。そして、現在ヨーロッパの隣諸国を相手にダックスの遺伝性疾患や不健全性を阻止するために、もう二度原産国であるドイツ・スタンダード(特に健全性)に立ち返り、ダックス犬の本来のスタンダード(特に健全性)を世界に啓蒙すべく「WUT」という組織を作り活動を始めたそうです。

いずれ日本にも、原産国としてのドイツ人が誇りに思い守り通してきたドイツ・スタンダード(特に健全性)を普及する組織が出来上がることを願ってやまないという内容で、互いに想いはひとつであることに会談は大いに盛り上がりました。

私自身も少しずつですが自らが探求しようとするダックスに対する健全性と自社ドッグフードの健全性の証を、本場ドイツに残すことができた気がします。今後はさらにダックスについて学び、探求し、健全に育むためのドッグ・フードの探求に邁進、近い将来日本へドイツの犬文化と伝統を伝え、ダックスたちの健全性に貢献できる日が来ることを夢見ています。